

Title	「外来語「アップ」の意味と用法」
Sub Title	
Author	蔡, 毅
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2021
Jtitle	日本語と日本語教育 No.49 (2021. 3) ,p.149- 149
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大学院文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20210300-0149

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「外来語「アップ」の意味と用法」

蔡 毅

これまで、外来語の全体像をとらえようとするマクロな研究は多く行われてきた。代表的な外来語の総合的な研究として、榎垣実（1963）と石綿敏雄（2001）が挙げられる。外来語の使用を定量的に分析する研究も多くなされた。例えば、国立国語研究所による複数回の語彙調査、山田雄一郎（2005）、橋本和佳（2010）、金愛蘭（2011）などが挙げられる。一方、個別語誌としての外来語研究は、その意味と用法について今後も種々の課題があると思われる。本稿は、外来語「アップ」の一語に注目し、その意味と用法について考察したものである。

本稿の構成は、第1章がこれまでの外来語研究の概観で、第2章から第5章までが本論部分に当たる。第2章では、まず21世紀の主な国語辞典の「アップ」の記述を検討し、「上がること。上げること」が「アップ」の最も中核的な意味であることを確認した。「アップ」が「アップロード」、「ウオーミングアップ」、「クローズアップ」などの略語として使われることも分かった。さらに、20世紀の主な国語辞典を検討すると、「アップ」の意味範囲が最初の「位置の移動」のような具体的なものから、「水準、能力の向上」のような抽象的な概念へと拡張してきたことが明らかになった。21世紀になると、IT関連の用法が加わったということであろう。第3章では、1900年代から1980年代までの「読売新聞」をデータベースを用いて調査し、「読売新聞」における「アップ」の使用度数と意味の変遷を明らかにした。「アップ」が初めて「読売新聞」の記事に登場したのは、1930年に「スピードアップ」という複合語の一部としてであった。1960年までは年間出現度数が10例前後の低水準が続いていたが、1960年代に入ると、急増に転じた。1980年以降は、増加の速度が少し低下したが、増加傾向にあることにかわりがないと思われる。第4章は、BCCWJから得た7000件余りの「アップ」の用例を「単独用法」と「結合法」に分けてそれぞれの性質を明らかにする試みをした。結論として、「アップ」は単独用法より、結合法の方が多く使われていること、「アップする」は自動詞として使われる場合、基本的に「上がる」の意味となり、他動詞として使われる場合、基本的に「アップロードする」の意味となることがわかった。本来の意味が「上がる、上げる」とされる「アップ」は、「上がる、上げる」より意味の範囲が狭く、主に「数値の増加」、「高い位置への移動」、「性質の向上」の意味を表していることなどが傾向として現れることがわかった。第5章では後接部分として使われる場合の「アップ」と「ダウン」を比較した。「増加」の意味を表す「アップ」と「減少」の意味を表す「ダウン」は対義関係にあるが、「ダウン」に比べると、「アップ」の方が造語力が強く、BCCWJにおける出現頻度も高いことが分かった。今後の課題として、下記の2点が考えられる。

1. 「アップ」の通時的研究に関して、本稿は新聞記事の資料しか考察していないので、雑誌、小説などの他の資料で、「アップ」の意味と使用量の変遷を考察する必要がある。
 2. 「アップ」の基本的意味である「上がること、上げること」と近い意味を表す漢語も少なからずあるが、なぜ外来語の「アップ」が使用され、用例数も増え続けているのだろうか。「アップ」が「増加」等の漢語の意味と使用状況について考察する必要がある。
- 以上、今後の課題とともに、修士論文の概要を記した。